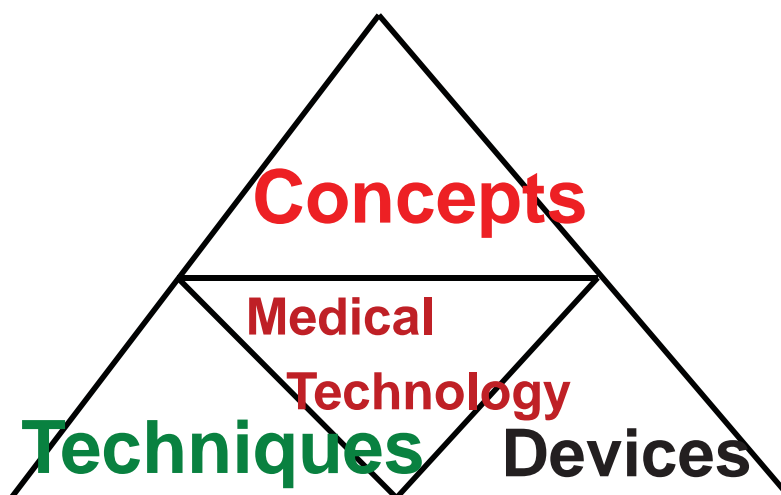


# 小括

医療機器の進歩・発展が医学・医療にもたらした真の貢献とは？



17

日本の人口は今後減り続けるから医療費も伸びない  
・・・本当か？

	<u>65歳以上</u>	<u>総人口</u>
2010年	29百万人(23%)	127百万人
2030年	37百万人(32%)	115百万人
2050年	38百万人(40%)	95百万人

日本の将来推計人口(平成18年12月推計)

医療費がかかるといわれる高齢者は増え続け、医療サービス需要は減らない。

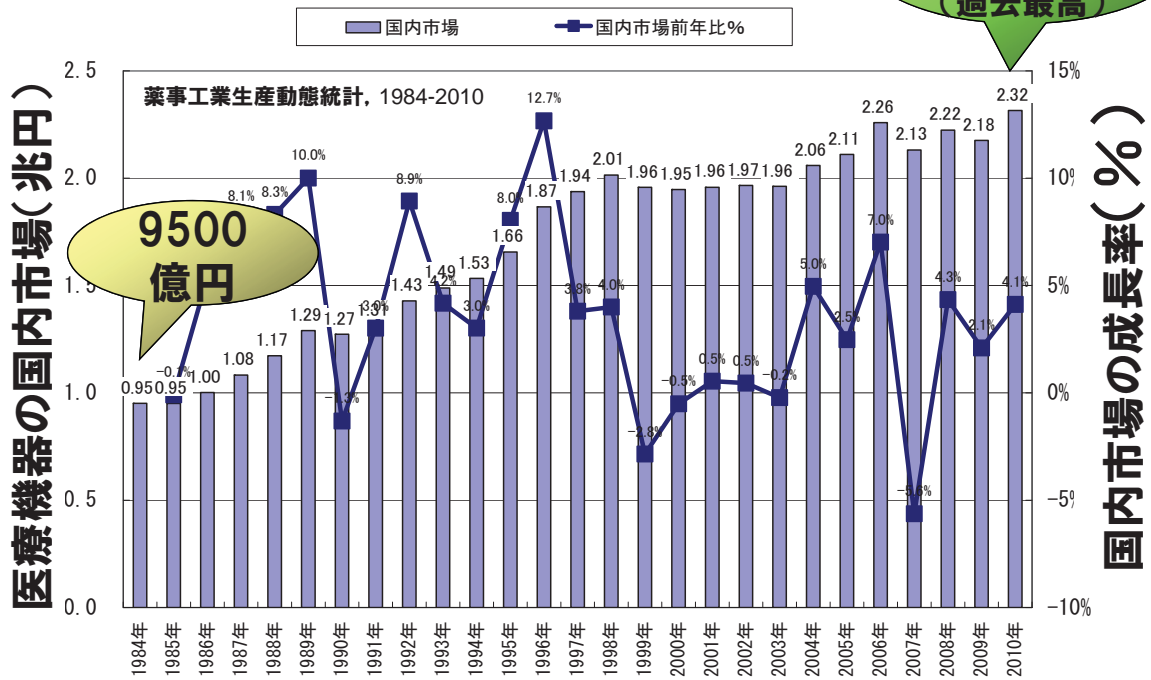
総医療費を抑制しつつ高いQOLを与えるという難問に、技術で解を出す ⇒ 革新的医療機器開発の必要性

18

# 国内医療機器市場の推移

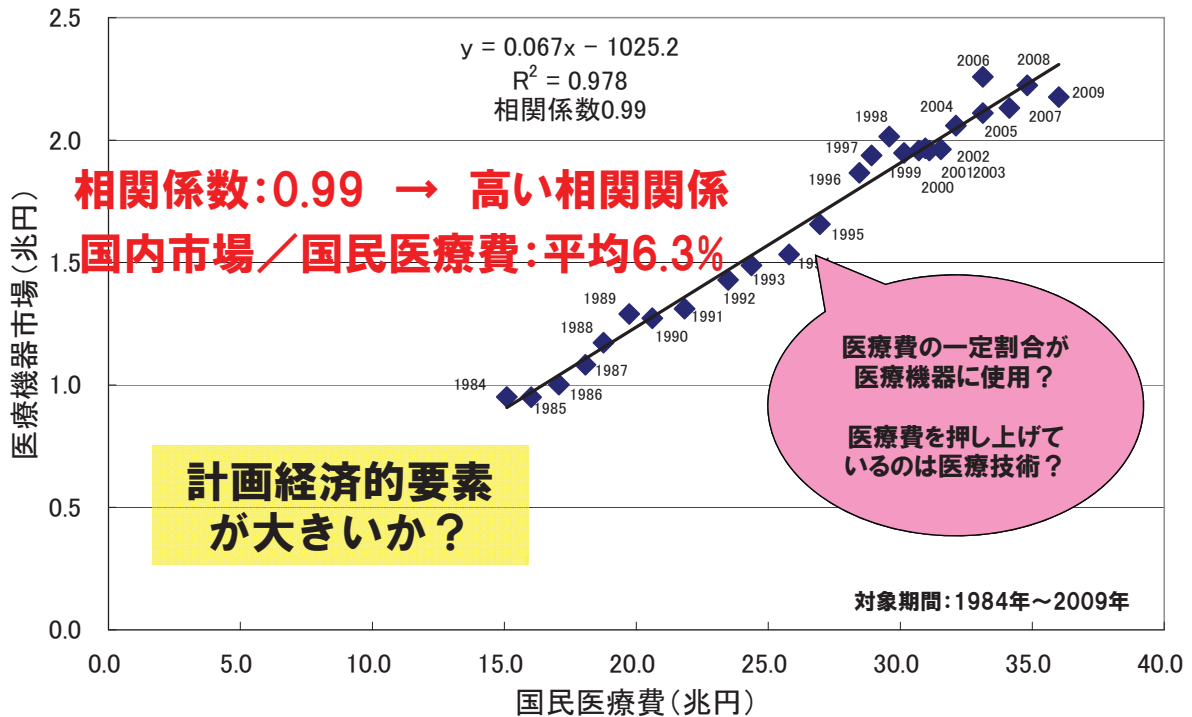
95年以降は低成長・・・

2兆3200億円  
円  
(過去最高)



中野:日本の医療機器市場の長期動向, 医療機器産業研究所リサーチペーパーNo.2(2010)

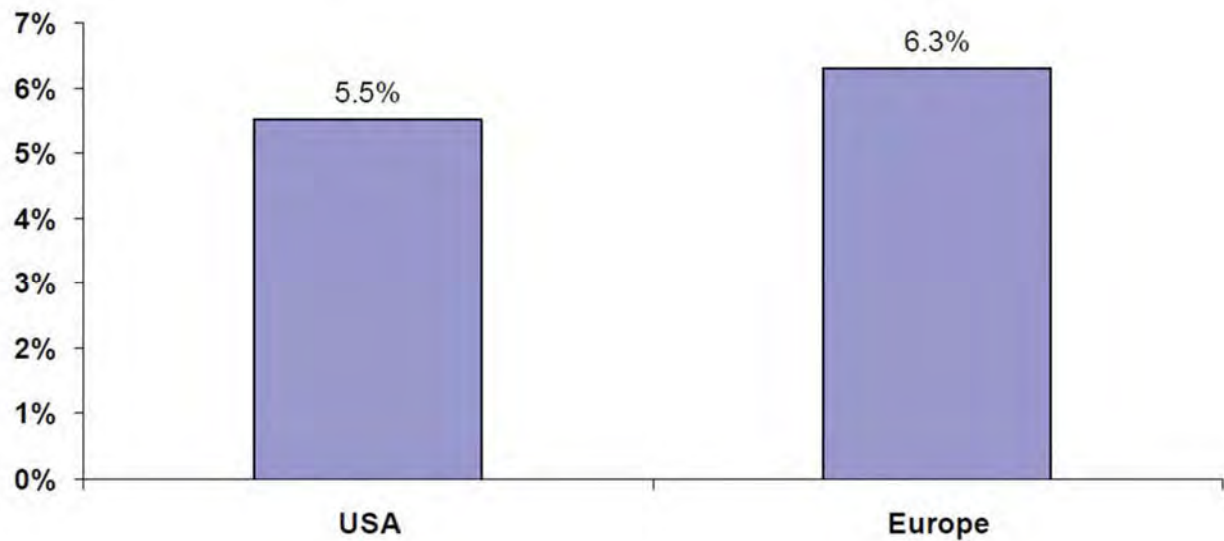
# 国民医療費と医療機器市場の相関関係



中野:日本の医療機器市場の長期動向, 医療機器産業研究所リサーチペーパーNo.2(2010)改

# 欧米の医療機器市場と医療費の関係

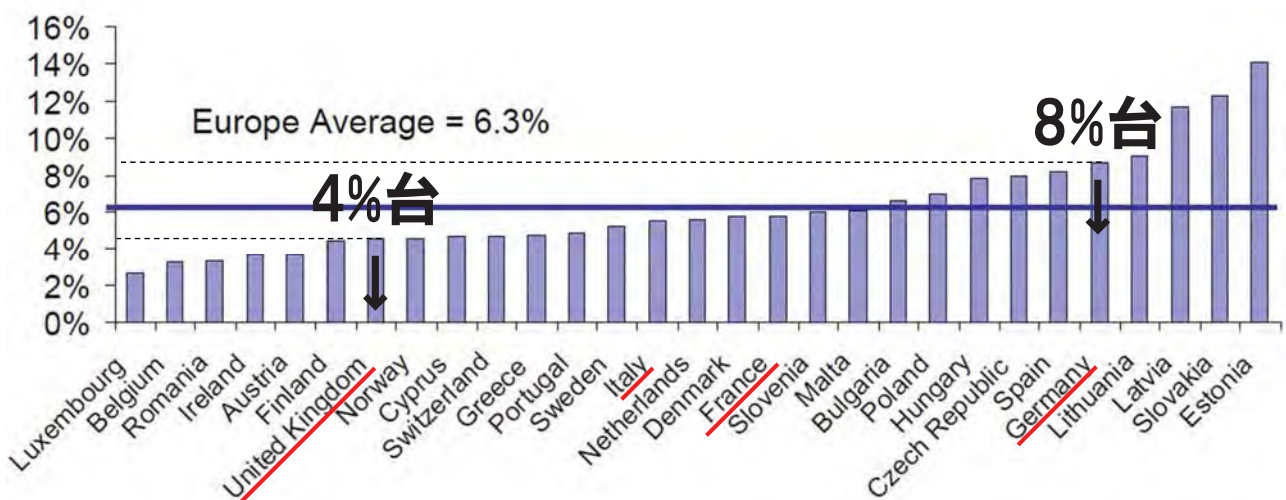
Percent of Total Healthcare Expenditure Spent on Medical Technology



Source: Eucomed Medical Technology Brief, May 2007

# EUの医療機器市場と医療費の関係

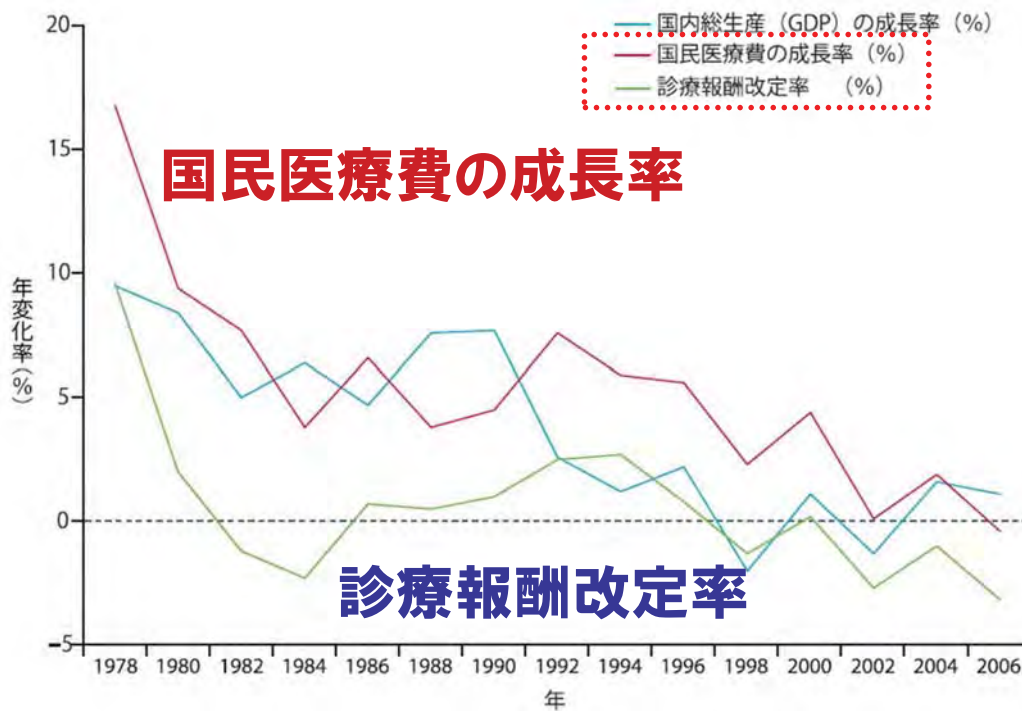
Percent of Total Healthcare Expenditure Spent on Medical Technology



Source: Eucomed Medical Technology Brief, May 2007

# 診療報酬改定率と国民医療費の成長率

診療報酬改定率と国民医療費の成長率の間には一定の相関関係



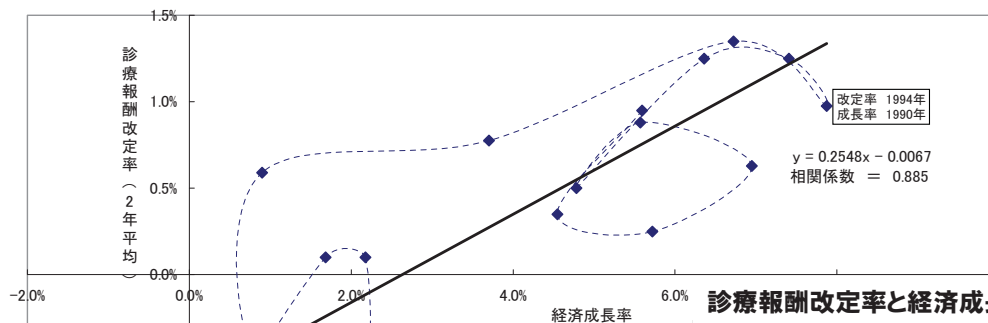
Special Series on Japan: Universal Health Care at 50 years, Lancet(2011年9月)

23

# 診療報酬改定率と経済成長率

経済成長率の4~5年遅れで診療報酬改定率が高い相関

- 診療報酬改定が最近では2年に一度であることから、各年度の改定率の2年平均値を出し、それと各年の経済成長率の相関をみたもの
- 診療報酬改定が、その改定率決定時における過去の経済動向を踏まえつつ決まることを考えると、両者の関係に一定のタイムラグがあると考えられる。
- タイムラグを4~5年とった場合に、高い相関係数が得られる。



診療報酬改定率と経済成長率の相関係数

タイムラグ	参照期間	相関係数
0年	改定率 (1986~2006)	0.513
	成長率 (1986~2006)	
1年	改定率 (1986~2006)	0.590
	成長率 (1985~2005)	
2年	改定率 (1986~2006)	0.602
	成長率 (1984~2004)	
3年	改定率 (1986~2006)	0.718
	成長率 (1983~2003)	
4年	改定率 (1986~2006)	0.885
	成長率 (1982~2002)	
5年	改定率 (1986~2006)	0.882
	成長率 (1981~2001)	
6年	改定率 (1986~2006)	0.758
	成長率 (1980~2000)	

医療費の将来見通しに関する検討会(厚生労働省、2006)資料より

24